

## 「まちの木せかえアイデアコンテスト」審査講評について

今回のコンテストには、県内の12小学校から317点の作品応募がありました。そして、内容も建造物や土木・公園施設、乗り物、街中で見かけるもの、家庭での日用品など幅広い分野に及んでおり、多くの小学生の皆さんが「木を使う」ということについて、興味を持ってくれたことに驚きを感じました。まずは今回応募された317名の子ども達にお礼を言いたいと思います。

そのような応募状況の中、今回、審査の基準を次により設定し審査を行いました。

- ① 絵の分かりやすさ
- ② タイトルや説明の良さ
- ③ 実現性や発想の独自性
- ④ 各審査委員の直感や気持ち

実際に審査を行うと、①から④だけでは判断できない作品も多くあり、審査員を悩ませたところですが、次のような作品が各審査員の気持ちを動かして最後まで優秀作品の候補として残りました。

- ア 街や家庭で見かけるものを木で「木せかえる」という気持ちをしっかりと持つて、本当にこんなのがあったら良いなというものを絵で伝えようという気持ちが自然に伝わってくる。
- イ コメントについては絵だけでは伝えきれない気持ちをしっかりと書いている。
- ウ 単に木に置き換えたのではない一工夫が絵やコメントに表れている。
- エ 新たに調べて（勉強して）書いてくれたのだなということが伝わってくる。

そして、これらの作品から共通して伝わってくるのは、「環境」、「自然」、「動植物」、「リサイクル」といった社会をやさしくする言葉であり、この「やさしさ」が木を使うことで引き出せないかという気持ちでした。この思いを大切にしようと審査を行った結果が今回の入賞作品となりました。

社会の中で「SDGs」や「カーボンニュートラル」という言葉がよく耳にされる昨今、将来を担う子供たちがこのような気持ちを持ってくれているということが分かり、私たちは嬉しく思うと同時に、「木」に関わる仕事をするものとして、子ども達に「木」のことを正しく伝えていかないといけないという責任感を改めて感じ、気持ちを引き締めたところです。

応募いただいた子ども達を始め、子ども達を支援いただいた先生方や保護者の皆様に改めてお礼申し上げます。

令和4年11月3日

まちの木せかえアイデアコンテスト

審査委員長 竹内 徳将

審査委員 一場 未帆

柴田 安章

杉田 洋

田室 名保美